



たかむく 2025

明章小学校
学校だより10号
令和7年9月30日

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果より

4月17日に6年生を対象に実施された、全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。学校では、今回の結果をもとに教育活動の改善と工夫に一層取り組んでまいります。

教科	分類		区分	県との比較	全国との比較
国語	全 体			△	△
	学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	△	△
			(2) 情報の扱い方に関する事項	◎	◎
			(3) 我が国の言語文化に関する事項	△	△
		思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	△	△
			B 書くこと	△	○
			C 読むこと	△	△
	評価の観点		知識・技能	△	△
			思考・判断・表現	△	△
	算数	全 体			○
学習指導要領の領域		A 数と計算		△	△
		B 図形		○	◎
		C 測定		△	○
		C 変化と関係		○	○
		D データの活用		△	○
評価の観点		知識・技能	○	○	
		思考・判断・表現	△	△	
理科	全 体			△	△
	学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域		△	○
		「粒子」を柱とする領域		△	△
		「生命」を柱とする領域		△	△
		「地球」を柱とする領域		△	△
	評価の観点		知識・技能	△	△
			思考・判断・表現	△	○

★教科に関する調査結果から【◎；大変良好 ○；良好 △；もっとがんばりましょう】

平均正答率を見ると、算数は概ね良好でしたが、国語と理科はもっとがんばりましょうという結果になりました。

【共通のこと】

どの教科でも「思考・判断・表現」の問題の正答率が低く、正しく考え、答えを導き出すことが苦手であることがわかりました。問題を正確に読み取り、何が

問われているのかを明確にする力が不足していると考えられます。さらに、正解を出すために必要な漢字や言葉の意味を理解していないことが予想されます。覚えるための練習が足りなかったり、知っていてもうまく使えなかったりするのかもしれませんが。漢字ドリルや計算ドリルを使って練習していますが、量的に不足しているのでしょうか。

児童質問紙調査の結果からは、平日の家庭での学習時間が少ないこともわかっています。ここ数年の本校の結果を見ますと、1時間以上学習に取り組んでいる児童は県や全国と比べて半分より少なく、30分以下の児童は2倍います。できるようになるための練習の量が足りていないという結果です。

ただ、単純に宿題の量を増やすだけでは効果はでないと思います。学習に対する意欲を高め、授業で知ったことを活かす機会を設けなければいけません。「なぜ?」「どうして?」といった子どもたちの問いを授業で取り上げ、主体的に学ぶ児童の育成にさらに取り組んでいきます。

【国語の結果から】(◎良好なこと △もっとがんばってほしいこと ※改善点)

◎ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。

△ 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討できる。

△ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる。

△ 漢字を文の中で正しく使うことができる。

「このみ(好み)」「あつい日(暑い日)

※ 自分の考えやまとめたことを発表する授業を充実させます。聞き手の興味・関心や聞き手がもつ情報量を予想し、どのような資料を用意すればよいか考えたり、聞き手の反応を確かめながら表現できるように、やりとりの練習を行ったりします。

【算数の結果から】(◎良好なこと △もっとがんばってほしいこと ※改善点)

◎ 平行四辺形の性質をもとに、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができる。

◎ $1/2 + 1/3$ を計算する。

◎ 伴って変わる2つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる。

△ 五角形の面積を求めるために、五角形を2つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書くことができる。

△ 簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができる。

△ 数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができる。

※ 算数の学習は、低学年からの学習の理解が積み上がって高学年の内容を理解していきます。すでに学習している内容をどれくらい理解しているかを把握し、

子どもたちの実態に応じた学習を準備していきます。

- ※ 子どもたちの言葉をつないで、概念としての知識を（再）習得することで深い意味理解を育みます。子どもたちが概念や意味を十分に納得したり理解したりするために、対話ベースで腑に落ちる場を設けます。

【理科の結果から】

- ◎ 身の回りの金属について、電気を通す物や磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている。
- △ 電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができる。
- △ 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いている。
- △ ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く。
- △ 氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解している。
- ※ 学習した内容や子どもたちの生活体験などをもとに、根拠のある予想や仮説を引き出しながら表現する活動を充実させ、問題を見いだす力を育成するようにします。
- ※ 観察したこと、実験結果などを比較して、違いや共通点を見付ける活動を行います。子どもが自分の疑問を解決したいという意欲をもって学習に取り組み、自力で問題解決できるような授業づくりをします。

★児童質問調査の結果から

教科に関する結果でもふれましたが、平日の学習時間が少ないという結果が出ています。また、読書をする時間が30分以上と答えた児童の割合も県平均、全国平均と比べて低いという結果でした。福井県全体で見ても、学習時間は全国に比べて少なく、昨年度と比べて減少傾向にあるようです。以前のように決められた宿題に取り組む指導方法から、子どもたちが自分の課題や目標を考え、自分で学習することを決めて取り組む方法に変わってきていることも影響しているようです。子どもたちが取り組みたい課題を見付けられるように、必要な支援をしていくことが大切になってきているのでしょう。時間の多い、少ないではなく、どんなことに取り組んだのか、内容を見ていくことも必要です。

その他の結果は、県や国の結果と比べて同じようなものでした。「学校に行くのが楽しい」と「普段の生活の中で、幸せな気持ちになっている」と答えた児童の割合は、県、全国と比べて同じ水準でほっとした気持ちになっています。引き続き学校生活の充実度を上げるための努力をしていきます。教員が授業や学習の場面において子どもの良さを認めたり、児童の困り感に寄り添いながら課題の解決を支援したりしていきます。全教員が児童の成長を認めていくまなざしを持って接していくようにします。